

第147回簿記検定試験 3級 出題の意図

[第1問]

(出題の意図)

基本的な仕訳を問う問題です。いずれも過去の試験問題に類題がありますので完答が望めます。

1. 収益および費用の記入漏れがある現金過不足の問題です。借方計上の現金過不足が雑損に結びつくこと、収益の未記入があることに惑わされず適切に処理する必要があります。
2. 各種税金の支払いに関する問題です。店の事業に関わる税金と、店主個人の税金の支払いについては区別して適切な勘定を用いる必要があります。複数の勘定科目が考えられますが、指定された勘定科目の中から選択することに注意しましょう。
3. 商品代金の一部を前受けしていた時の掛売上げの処理と、発送費の処理が組み合わさった問題です。それぞれを分けて考えれば解答を導き出せます。
4. 未収収益の再振替の問題です。前期末に計上された未収収益の処理を適切に考えられれば、その反対仕訳として解答が導き出せます。
5. 有価証券の売却に関する問題です。株式取得時の単価を適切に算定できれば、売却単価との差額から有価証券売買損益を算定することができます。

[第2問]

(出題の意図)

資料から商品有高帳を作成し、純売上高、売上原価および売上総利益を求める問題です。

商品有高帳には売価に関わる数値は記入しないということを理解する必要があります。つまり、商品有高帳作成時に資料にある売上時の売価を用いないこと、売価の修正である売上値引きについては商品有高帳に記載しないことの2点に注意しなければなりません。

ただし、純売上高を求める際には、売上高の集計にあたって売上値引きの金額は差し引かなければなりません。このように、商品有高帳作成の時と純売上高を求めるときでは売上に関する数値の使い方が異なる点を適切に理解しましょう。

[第3問]

(出題の意図)

1 か月分の取引を集計して残高試算表を作成する問題です。一看すると分量は多いですが、取引は日付順ではなく項目ごとにまとめられています。そこで、例えば(1)現金に関する事項について取引をすべて借方・貸方に分けて仕訳に書き出すのではなく、現金をすべて電卓上で集計したうえで相手勘定科目のみを書き出すなど工夫をすれば、時間をかけずに解答できます。早く正確に答えるテクニックは、検定合格だけではなく簿記実務でも必要です。

個々のポイントは次のとおりです。

1. 今回は久しぶりに項目ごとに取引をまとめた出題であったことを考慮し、重複取引の指示を加えました。今後の出題で指示を加えるとは限りませんので、留意してください。
2. 商品発送費（顧客負担）の勘定科目については、指示がなくても解答用紙の試算表から企業が用いている方法を判断することが必要です。
3. 中小企業の借入では元金均等返済が多くみられます。今回は知識がなくても解ける出題としましたが、今後は月々の返済も含めて学習しておくことが望まれます。

[第4問]

(出題の意図)

本問は、支払手数料勘定と前払手数料勘定の記帳問題であり、過去にもよく出題されているタイプの問題です。実務ではいろいろな手数料を支払うことがあり、それを費用処理するのか、資産の取得原価に算入するのかを理解できているかを問いました。また、貸借対照表項目と損益計算書項目では勘定の締切方法が異なるので、それが理解できているかも問いました。

[第5問]

(出題の意図)

本問は、精算表作成の基本的な問題であり、過去にも類似問題が何度も出題されています。未処理事項と決算整理事項の仕訳、修正欄への記入、貸借対照表または損益計算書への移記、当期純利益の計算といった一連の流れが理解できているかを問いました。